

論壇

格差の拡大に二つの要因

デフレからの脱却を目指したアベノミクスが始まってから7年がたった。その間に株価は大幅に上がり、企業の業績も改善した。雇用も堅調である。日本経済がデフレから脱却しつつあるのは明らかだ。それにもかかわらず、国民の多くは自分たちの生活が良くなっているとは感じられないようだ。これからの生活が不安だと身構えている人も多い。

株価や企業業績の改善と、不安感を強める国民、このギャップはなぜだろうか。こうした現象は実

伊藤 元重

学習院大学教授(国際経済学)

令和を教育主導の時代に

は日本だけのことではないようだ。米国でも欧州でも、経済全体にこうした重い雰囲気漂っている。株価は好調だし雇用も改善しているのに、消費の動きは鈍い。物価も賃金もなかなか上がっていない。

こうした流れの中で多くの専門

なくとも二つの要因がある。一つは技術革新だ。機械やITが単純な仕事をこなしてくれる。これはよいことでもあるが、機械と同じことしかできない人の所得は機械並みということになる。もう一つの格差の要因はグローバル化だ。海外の低賃金の労働者に仕事を奪

なくなるのだ。それ以上に重要なことは、社会全体の活力が減退することだ。国民の多くが将来に向かって希望が持てる社会であること、これこそが持続的成長の大前提である。

若い世代へ機会の平等を

家が指摘するのが、低所得者の苦悩、中産階級の不振、そして一部の限られた人への所得と富の集中である。経済のマクロの指標で見ると好調のように見えて、実はごく一部の人しかその恩恵を受けていないのだ。

格差が拡大している背景には少

われる。海外の労働者ができる仕事しかできない人の賃金が上がることはない。格差が拡大していく中で、経済が持続的に成長することは難しい。すでに欧米で顕著になっていくような保護主義の台頭を招くことになる。健全な政策運営ができ

では、どのような対応が必要だろうか。格差是正のための所得再分配や社会保障制度の充実が必要だろう。ただ、再分配政策に過度に頼りすぎることに問題も多い。再分配政策は対症療法的な面がある。頑張っても頑張らなくても、結果が同じということになりかねない。結果の平等を過度に追求することは社会の活力の低下を招く。

若い世代にとつての教育機会の平等は重要である。富裕層の子供しか質の高い教育を受けられない社会は格差の固定化を招く。技術革新やグローバル化が進めば、日本の若者もそれに応じたスキルアップが必要となる。若者だけではない。すべての国民にとつて繰り返し学び続けるリカレント教育の重要性が増している。政府は全世代型の社会保障の中で教育の強化を打ち出そうとしているが、これを掛け声だけで終わらせてはならない。残念ながらこの20年の教育予算はシリコンの状態が続いている。予算をかけたければよいというわけではないが、経費カットだけの予算で教育の質が維持できるはずがない。2年目になったが、令和を教育主導の時代にしたいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。